

## 第5回

# ひょうご新聞感想文 コンクール



## 平和の意味

山下颯真（やました・そうま） 神戸市立有野北中学校3年

「8月15日は終戦記念日」ということで、僕は戦争に関する記事をいくつか読んだ。その中に「僕の街も戦場だった」という見出しの記事があった。その記事を読んだ時、僕は「平和とは何か」についてあらためて考えさせられた。

僕は「平和とは何か」と問われると、「争いがなく、みんなが笑顔でいられるような状況」と答えるであろう。辞書で調べても、そのような感じで書かれていた。それならば、「平和とは何か」の答えは、それで良いのだろう。しかし、この記事を読んで「平和」の意味は、他にもあることを知った。

太平洋戦争末期、国民学校6年だった大海一雄さんは滋賀県大原村に疎開していた。疎開先では食料が少なく、イナゴを食べていたこともあるそうだ。僕はこの文を読んで「平和」の二つ目の意味を見つけた。それは、「毎日飯を腹一杯に食べられる」ということだ。戦時中は、たとえ毎日飯を食べられても、量がとても少なく空腹に耐えなくてははいけなかった。なので「毎日飯を腹一杯に食べられる」ということは「平和」の一つではないかと思う。さらに記事を読み進めると、今度は大阪大空襲のことが書いてあった。卒業式の前夜、3月13日に空から無数の焼夷弾が降ってきたそうだ。考えただけでも恐ろしかった。その後も何度も空襲があり、その頃は死ぬのがあたり前で将来の夢などなく、20歳を過ぎた自分を想像することさえできなかったそうだ。この文を読んだ時、「平和」の三つ目の意味を見つけた。それは、「自分の将来を想像できる」ということだ。今はみんな将来はこんな人になりたいとか、こんな職業につきたいなどと夢を持っている。夢を持っているということは、自分は大人になるということを知覚しているからだ。戦時中は、自分の将来を想像できないくらいなので、夢を持つことができるということは、平和だからなのではないかと思う。

僕は、「平和」の意味はまだまだたくさんあるのではないかと思う。僕がこの記事を読んで学んだ「平和」の意味は、ほんの一部にすぎなかったのであろう。ならば他の「平和」の意味は何だろう。辞書で調べても他の意味は載っていない。もしかしたら「平和」の意味は、言葉にできないものかもしれない。

もしまだ戦争が日本で行われていたら、間違いなく今はこんな生活をしていない。69年前の今日、戦争が終わったからこんな生活ができる。「平和」だから、こんな生活ができるのだ。僕は今日もこれからも、「平和のありがたさ」を考えて生きていこうと思う。

（8月15日付 毎日新聞から）